
水晶塔の白き竜

鈴木祥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

水晶塔の白き竜

【Nコード】

N5294N

【作者名】

鈴木祥

【あらすじ】

皇太子のユージ。竜騎士を司る侯爵家のダカー。白魔導を操る侯爵令嬢のアメラ。3人は、少年少女の頃から楽しい時も、苦しい時も、平和な時も戦乱の時も、一緒に過ごしてきた。国は平和で豊かになり、王と王妃、竜騎士長になった今、3人は幸せに過ごす筈だった。

けれども、待っていた結末は、王は王妃を自分の手で逝かせることだった。

何故、こんなことになってしまったのか？

1・最期の時

いつの間にか、窓の外は、夕闇が迫っていた。
石造りの冷たい部屋の中は、ほの暗くなっていた。

どのくらい、こうしていたのだろう。

腕の中で、もう目を開くことのない妻の身体は、
少しずつ、温もりを失っていく。

ユージは、愛しいアラメラの身体をもう一度強く抱きしめると、
静かに抱きあげ、そっと寝台の上に横たえた。

そうして、枕元にある水入れの水を布に含ませると、
自分の顔を拭いた。

例え、妻を亡くした直後であろうとも、

王である自分が、気づかぬ間に涙にぬれてしまった頬を
この水晶塔の出口で自分と妻を待っている

兵士たちに見せるわけにはいかない。

幼い頃から一緒に育った親友である竜騎士長にでさえ。

未だに、ダカーは自分を親友と思っているのだろうか？

愛するアラメラを奪った今でも？

静かに顔をぬぐい終えると、

ユージは、アラメラの身体を静かに抱きあげる。

アラメラは、最後の装束に、「白き竜」と呼ばれ、
白魔導師として戦場をかけめぐっていた頃の

白い鎧をまとっていた。

しかし、その鎧と身体の間には、大きく、隙間が空いていた。すっかり、細くなってしまった、その身体。

8年の苦しみは、彼女の身も心も蝕ばみ、身体は、小さく軽くなってしまった。

けれども、その眠っているような顔は、とても穏やかだった。やっと、彼女は、静かに眠れるのだ。

その顔は、出会った頃の少女の頃の面影に近かった。

穏やかに逝かせることが出来て良かったという思いの反面、自分を独りにして、穏やかに眠るように逝ってしまった彼女になんとも、やりきれない、憤りのようなものを感じる。

彼女は、自分を残して逝ってしまうことに、なんの躊躇もなかったのか？

もう、彼女の心の中に、自分を想う気持ちはなかったのか？

彼女を苦しめていたのが、全て自分が起因しているということは、今はもう、ユージは判っている。

けれど、再び心は通じあつたと、

最期の瞬間にもユージは感じていたのに。

何故、生きている間に、

もっとこの身体を抱きしめなかったのだろうか？

何故、生きている間に、

もっと話をしなかったのだろうか？

何故、もつと生きている間に……。

ユージの心に、自分を責める後悔の念があふれる。

その時、頭上から、

「クイーン！」

という哀しげな竜の絞り出すような鳴き声と
大きな羽の音がして、

水晶塔の最上階のこの部屋を大きな影が包んだ。

アラメラの白き竜、チラルの声だ。

アラメラの死を悲しんでいる。

いつまでも、ユージはアラメラとふたり、

こうしていたかった。

けれど、夜の闇はそこまで来ている。

もう、行かなければならない。

ユージは、アラメラをもう一度、しっかりと抱きしめなおし、
塔の外へと足を向けた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5294n/>

水晶塔の白き竜

2010年10月8日15時13分発行